

認知症とうつ・自殺

HDS-R 20点台の比較的軽度の認知症では自殺企図にも留意を！

認知症における自殺の危険

【冒頭省略】

従来は、認知症の患者は自殺行動に及ぶことはないとの見解が大勢を占めていたのだが、最近になって、認知症の患者においても、健常者に比較して高率に自殺行動に及ぶ危険が高まる点を指摘されるようになってきた¹⁾。認知症といっても長谷川式簡易知的精神機能評価スケールで10点以下というような高度の認知症は少なく、むしろ20点台の比較的軽度の例がほとんどである。認知症の初期に他の抑うつやせん妄が合併した際の危険も大きい。せん妄も認知症も、認知の障害を伴い、その結果、周囲の状況を正しく確実に把握できずに、事実とはまったく関係のない誤解に基づいた行動が突然の自殺企図に結びつく例がある。他の身体疾患とも関連して、術前、術後の強い不安やせん妄にも注意する。

抑うつ症状の重要性はもちろんだが、心気傾向、軽度の認知症、せん妄が、自殺に結び付く危険も高い。うつ病 depression, せん妄 delirium, 認知症 dementia を、高齢者の自殺の危険の3Dと指摘する者もいる。事故死か自殺か不明の死亡例がこれに該当することは臨床の場ではけっしてめずらしくない。

(以下省略)

(防衛医科大学校/防衛医学研究センター行動科学研究部門・高橋祥友教授)

(Clinical Neuroscience vol.25 no.2 p216-219,2007)

私の感想：

参考文献¹⁾の抄録には以下のような記載もあります(=伊藤敬雄：老年精神医学雑誌第13巻第11号,p1307-1322,2002)。

本研究では、脳血管性痴呆(VD)とアルツハイマー型痴呆(ATD)における自殺企図例について比較検討した。調査したVD251例中11例(4.4%)、ATD409例中13例(3.2%)に自殺企図が認められた。自殺企図例の平均年齢は全体と比較して低くすべて痴呆軽症に分類された。男女比では女性が多く、ATD自殺企図例では執着気質傾向という病前性格との関係が推察された。ATD自殺企図例に比して、VD自殺企図例では痴呆罹患期間が短く認知機能が軽度であった。同居家族のかかわり方や慢性疾患が自殺企図の危険因子となりうると考えられた。各自殺企図群とも気分障害の既往を20数%に認め、また自殺企図前に抑うつ・心気・不安状態を高率に認め、感覚欠損を有する症例では妄

想も自殺企図に関与していた。VD 自殺企図例では基底核領域の多発性梗塞，ATD 自殺企図例では前頭葉（とくに左側）萎縮が特徴として指摘された。VD 自殺企図例では自殺につながる警戒兆候や希死念慮を周囲に悟られず突然に自殺企図に至ったケースが多く，36 %が既遂であった。ATD 自殺企図例では既遂はなく，周囲に希死念慮をほのめかし演技的な自殺企図も認められた。

アルツハイマー病では既遂（きすい）はないが、脳血管性認知症では36%（=11例中4例）が既遂（完遂）というデータも貴重ですね。